

市長所信表明(平成20年9月24日)

平成二十年第二回登別市議会定例会にあたり、市政に臨む私の基本姿勢と所信を申し上げ、市議会議員の皆さん並びに市民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

私は、去る八月の登別市長選挙におきまして、市民の皆さんの温かいご支援をいただき、今後四年間、市政執行の重責を担うことになりました。

市民の皆さんの市政への熱い思いを受け止めるとともに、これまで寄せていただいた市政への信頼をさらに強め、市政運営の大きな負託にお応えできるよう微力ではありますが、全力を尽くして市政の経営に努めてまいりたい決意であります。

近頃は食品への信頼が大きく揺らいでいるほか、原油価格の高騰によるガソリンや灯油、日用品などの諸物価の値上げにより、日常生活が非常に厳しい状況におかれており、市民の皆さんは、細かなところに気を配り家計を切り詰め、少しでも生活の無駄を省くさまざまな知恵や工夫を凝らしています。

また、地域医療については、医師不足などに起因する診療機能の低下は、地域に暮らす全ての人にとって早急に解決すべき大きな課題であります。

さらに、子どもを取り巻く状況も児童虐待や子どもを狙った犯罪・青少年による凶悪な犯罪など想像を超えるものがあり、このような深刻な状況を見逃すことはできません。

私は、今回の選挙を通して、多くの方から力強い励ましの言葉をいただくとともに未来への切実な願いを託されました。

私は皆さんからの励ましを糧に、この大好きな登別市で一人でも多くの方が笑顔で暮らしていけるよう全力をもって努めてまいります。

今後四年間の市政運営にあたる私の基本的な考え方について申し上げます。

第一は、市民力の結集による開かれた行政運営についてであります。

私は、立起以来一貫して一党一派に偏らず、市民の目線に立った「市民党」の立場を守ることを表明してまいりました。

市民が主役であるまちづくりを推進するためには、まちづくり基本条例の基本理念に謳っております「公正・公平・公開」を原則とする開かれた市政運営が必要であります。

そのために私は、五万三千人の市民の皆さんに対して常に公正・公平な市民党の立場を堅持し、市政について分かりやすく丁寧な情報発信に努めるとともに市民の皆さんとの距離をゼロに近づけ、常に市民の声を聞くことができる場をつくりたいと考えています。

市民一人ひとりの声を市政に反映させ、市民の誰もがまちづくりの主役であるという意識の醸成が、市民の広範な参画と活発な行動という大きな市民力となり、自分たちのまちは自分たちで築いていくという生きがいと活気に満ちた新たな協働のまちづくりの扉を開くものと考えております。

第二は、地域力を活かした地域経済の活性化についてであります。

登別温泉は、先人の弛まぬ努力により、年間三百万人の観光客が訪れる世界に誇る温泉地として発展を遂げ、本年、記念すべき開湯百五十年を迎えました。

この記念すべき年に、温泉街の交通渋滞の解消とにぎわいを取り戻す登別温泉バイパスが開通したほか、天然の間欠泉を間近に見ることができる「泉源公園」が完成し、登別温泉発展の第二幕とも言える新たなステージが完成しました。

これを契機として、さらなる飛躍・発展を目指し、新たな観光客の誘客やリピーターを増やすための新たな観光戦略の策定に取り組むとともに、登別温泉のみならず登別市内に埋もれた観光資源を掘り起こして活用の方策を探るなど、市民の皆さんとともに知恵を出し合い、まちを挙げての観光地づくり、光を放ち続ける観光地づくりを進めていきたいと考えております。

また、市内の経済活性化対策の一つとして、観光産業を軸とした他産業との連携により、経済の活性化を目指す「登別産業クラスター形成計画」の具現化を推進するとともに、異なる業種の企業によるネットワークの繋がりをさらに深めて産業間連携の厚みを持たせ、雇用の促進を図るとともに「のぼりべつブランドづくり」を進めることにより地域経済の活性化を図ってまいります。

第三は、市民の暮らしを大切にしまちづくりについてであります。

少子高齢社会の到来や核家族化の進行により地域の活力が停滞し、地域に暮らす人々の社会的な繋がりが希薄化しつつあります。

このため、日常生活において支援を要する高齢者や障がい者などを取り巻く状況は一層厳しくなっております。

今こそ、共に生きるまちづくりの精神を発揮し、人々が手を携えて生活の拠点である地域に根ざして助け合い、誰もが安全に安心して充実した生活が送れるような地域

社会、機能的で心の通った地域に根ざし、支え合う福祉を推進する体制の構築を図ってまいります。

登別の未来を拓く子ども達は、登別市にとってかけがえのない宝であります。この子ども達が、豊かな自然と地域とのふれあいの中で健やかに育ち、心豊かに成長することは私の心からの願いであるとともに、市民全ての願いでもあります。

子育て世代が安心して子どもを生み育てることができるよう地域の協力を得ながら支え合う環境を充実させ、子ども達が成長していく過程においてそれぞれの時期に必要なとされる教育をこれまで以上に展開するとともに、市民誰もが生涯にわたって心豊かに生き生きと暮らせるよう生涯学習の充実を図ってまいります。

以上が、今後四年間の市政運営にあたる私の基本的な考え方ではありますが、これらの実現には行政コストを削減して効率的な行政運営を進めるとともに、「良いところは大いに助長し、改革すべきところは強い意志を持って改革する」という考えを基本に行財政改革に取り組む必要があります。

行政を進めるにあたっては、民間経営のノウハウを活かし、喫緊の問題に緊張感とスピード感をもって取り組み、行財政改革を進めるにあたってはコスト意識を常に持ち、時勢が何を必要としているかをしっかりと認識し、改革を進めてまいります。

行財政改革は、市民の皆さんや議員の皆さんはもちろんですが、市職員の皆さんの理解と自ら改革に取り組む意思無しに進めることはできません。

私は、常に皆さんとの対話を図りながら率先してこの改革に取り組んでまいります。

申し上げるまでもなく、市政の運営は私一人ではできません。

まちづくり各般にわたり、議員の皆さん並びに市民の皆さんのご意見とご協力を賜りたいと存じます。

次に、当面する課題について申し上げます。

まず、第一に市民力を結集した協働のまちづくりについてであります。

私の市政運営にあたっての基本的な考え方は、平成十七年十二月に施行しました「登別市まちづくり基本条例」の理念のもと、「公正・公平・公開」を原則とする開かれた市民自治の実現にあります。

そのためには、まちづくりの主役である市民の皆さんの広範な参画を得ることが基本であり、まちづくりに参画しているという手応えを市民一人ひとりが実感できるまちづくりを進めなければなりません。

行政が行うさまざまな事務事業は、法令等に基づき定められた手順を踏む必要があるものや財源が限られているため複数年度にわたって事業展開をするものなど、事務事業の趣旨や手法、期間、経費など、理解しにくい点があります。

私は、市の仕事について市民の皆さんにご理解をいただき、広範な市民参画を得ていくため、広報紙やホームページ、各種懇談会等を活用し、市が行う事務事業の内容等について、平易な言葉や図などを用いながら市民に分かりやすく丁寧な情報発信に努めてまいります。

また、経費や人材、資源などを無駄にしない将来をしっかりと見据える民間の視点・発想を活かし、単に行政を運営するのではなく、市政においても諸物価の値上がりという厳しい状況の中で市民が生活を営むと同様に細かなところに気を配り、切り詰めるところは切り詰め、少しでも無駄を省いたきめ細かで効率的な行政経営に取り組んでまいります。

さらに、市職員の誰もが自分の仕事に自信と誇りを持ち、市民サービスに取り組むことができるよう職員の発想や意欲、能力を十二分に活かすことのできる組織のあり方などを考えてまいります。

市の仕事の推進については、地方交付税等の大幅削減や人口減少等に起因する税収の伸び悩みのほか、ピークを迎え高止まりとなっている市債の償還などによる歳出の増加など、厳しい財政状況をしっかりと踏まえたうえで、市が行うべき事業と民間が担うべき事業の棲み分けを行う事業分類の手法や行政からの視点だけではなく市民の目線から市の事務事業を評価する外部評価の手法の確立に努め、市民参画のもとに事務事業の再構築を進めてまいります。

市民活動の推進については、まちづくり活動に率先して取り組んでいる人やこれから取り組む人が幅広く情報交換を行い、個々の団体または複数の団体でまちづくり活動を多彩に展開するためのシステムの構築に努めてまいります。

また、まちづくり団体が活動しやすいシステムの構築の後、まちづくり活動を支援するための財源の確保に努めてまいります。

第二に、産業連携による地域経済の活性化についてであります。

本市は温泉資源をはじめとするさまざまな観光資源に恵まれており、中でも登別温泉は世界に誇るアジアの観光地であります。

本年、開湯百五十年という大きな節目を迎えるとともに温泉バイパスなどのインフラ整備や泉源公園といった新たな観光名所も完成し、更なる発展を期すべくこれらを契

機とした新たな観光戦略と観光地づくりに取り組む必要があります。

魅力ある持続発展可能な観光地づくりを進めるため、次代を担う若い力をより発揮できる環境づくりに努めてまいります。

また、基幹産業の観光を軸とした多彩な産業がしっかりと有機的に結ばれ、異業種同志がさまざまな可能性を連携させ、複合して市内産業に厚みをもたらす産業クラスター計画の推進に努め、雇用の場の確保を図るとともに、新たに生まれた産業が大きく育っていくことができるよう、いかなる小さなチャンスでも活かし、自らチャンスをつかみ取ることができるよう技術開発や販路拡大に向けて民間が果たすべき役割、行政が果たすべき役割をしっかりと確認し、その支援を図ってまいります。

私たちの暮らすこの登別市は、海や山の幸に恵まれた素晴らしいまちです。

この自然がもたらす素晴らしい資源の価値をより高めるような加工技術の向上を図り、「のぼりべつ」を国内外に力強く発信し、「のぼりべつ」を明確にイメージでき、魅力を感じることができる「のぼりべつブランド」づくりを経済関係団体のご協力をいただきながら進めてまいります。

また、優れた技術や知識を有する高齢者や団塊の世代などがまちのために頑張りたいという気持ちを活かせるよう、登別の新たな魅力となるまちづくり活動や起業への支援について取り組んでまいります。

第三に、市民の心がふれあう思いやりあふれる地域福祉と教育の充実についてであります。

少子高齢社会を迎え、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で生き甲斐ややりがいを見だし、生き生きと暮らしていける地域社会の実現は早急の課題であります。

登別市の次代を担う子ども達に高齢者の知識や経験を伝えるとともに、子ども達がたくましく健やかに育つことができるよう世代を超えた交流を日常的に行える施策の充実を図ってまいります。

さらに、高齢者が生き生きと日々を送り、活力ある人生を楽しむことができるよう、できうる限り要介護状態とならない健康づくりをサポートしてまいります。

子育て環境と教育の充実については、誰もが、愛する登別で安全に安心して子どもを生み、溢れるばかりの愛情を注ぎ、健やかに育てあげられる環境づくりに取り組んでまいります。

また、子ども達が課題に直面した時、その解決に向け子ども達が自発的に取り組

み、自分で道を切り開く力やくじけることのない強い心を育てていきたいと思ひます。

このまちに暮らす誰もが安全に安心して生活を営むことができるよう市が果たすべき消防、防災対策、防犯への取り組みを地域の皆さんとともに進めてまいります。

また、少子高齢社会や子育て、環境問題など、さまざまな課題に幅広く対応するため、市民の目線で課題解決に取り組む行政組織の確立を図ってまいります。

以上、市政執行に望む私の基本的な姿勢と所信について申し述べさせていただきました。

聖徳太子が定めたと言われる十七条憲法では、最初に「和を以(も)って貴(とうと)しと為(な)し」と謳われています。市民・議会・行政が常に和を尊びながら取り組むことが大切であると考えております。

私は、「のぼりべつの和の心」を持って市政に取り組んでまいります。

まちづくりを進める上で、「市民力の結集」は特に重要なことであり、また、まちの現状と将来について議論を尽くすことも重要なことでもあります。

市民の皆さんとまちづくりのあり方について、今後、さまざまな機会を設けて十分に議論を深めていきたいと考えております。

市政の主人公は市民であります。

私は、市民の皆さんとともに真剣に知恵を出し合い汗を流して、夢と希望にあふれるまち、安心と活力のあるまち、市民・議会・行政が一体となって取り組む協働のまちづくりがどこよりも輝いている、日本一だと自信をもって言えるまちにしたいと思ひます。

さらに、職員がまちの発展と市民の幸せを何よりも一番に願ひ、市民のために行動する日本一の市役所を目指し、市政を推進してまいりたいと思ひます。

市議会議員の皆さん並びに市民の皆さんのご理解とご協力をここに重ねてお願い申し上げます、私の所信表明といたします。